

不飲長如醉、加食亦似飢。狂吟一千字、因使寄微之。

(本文は新釈漢文大系本に拠る。白詩中にある分注は省略した)

(傍線・二重傍線 筆者)

この白詩の詩内容を概観すると本文は、**甲**と**乙**とに二区分できようと思う。**甲**の部分では、白居易と元稹の交情が、二人の出会いから元稹の江陵士曹の貶謫に至るまでのことが、情感豊かに描き出されている。そして**乙**の部分では、一変して元稹の江州左遷という思いがけぬ事態が起こり、その非情な命に従わざるを得ぬ元稹の心情を代弁するが如く、江州貶謫の様が詠まれている。そしてそれに、長安で案じる自分自身の心情を付加するという構成となっている。元稹と白居易の交情については川合康三氏の近著に詳しい。(注6)

ここで注目したいのが、著者が傍線を引いた**乙**の原文の箇所である。明らかな詩句の措辞を傍線で、又詩情の類似した箇所には二重傍線を付して指摘を試みた。

具体的に例示すると白詩の「木秀遭風折／蘭芳遇露萎」を道真は一八一・一八二句で「風摧同木秀／燈滅異膏煎」と表現し、白詩の「千鈞勢易壓」の「千鈞」の詩語は、道真の一六三句の「責重千鈞石」に見える。又、白詩の「吹毛遂得疵」の詩情は、道真の一八五・一八六句の「覆巢憎蔽卵／搜穴叱蜥蜴」の詩内容に通じるものがある。又白詩の「賈生離魏闕／王粲向荆夷」の「賈誼」「玉粲」の二人は、道真の五十七句「長沙沙卑濕」と一〇八句「銷憂羨仲宣」で使われている。又白詩の「淚墮峴亭碑」で晋の「羊祜」の故事を、道真は一九五句の「縱使魂思峴」として同様の故事を響かせている。又、白詩で「官舍黃茅屋／人家苦竹籬」の詩内容を、道真は、一九一・一九二句で「瓌瓌黃茅屋／荒荒碧海壖」と表現する。又白詩の「寡鶴摧風翻」の表現を、道真は八十九